

市長退任記者会見（報告）

1 日 時 令和5年12月21日（木）10時00分～10時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>山形新聞、読売新聞、朝日新聞、産経新聞、NHK、SAY、YTS、
置賜日報

<市>市長、秘書広報課長

4 内 容

○秘書広報課長

これより中川市長の退任に伴う記者会見を開催いたします。はじめに中川市長が退任にあたり挨拶を申し上げます。

○市長

私の任期が今日で最終日となりました。今日まで記者クラブの皆様には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。また、タイムリーに米沢市の情報を発信していただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

市長就任時に課題となっておりましたことに関しましては、概ね完了させていただいたと思っております。目の前に様々な課題もありますが、今後の発展を望みながら米沢がより住み良いまちになることを願っております。あとのことにつきましては記者の皆様のお質問に答えていくような形で会見をさせていただきたいと思っております。本当に長い間にお世話になりました。心から感謝を申し上げます。

○記者

在任中の成果については、主に3つお話しておられますが、一番思い出に残っていることや本日の気持ちを一言お願いいたします。

○市長

就任時は大きな3つの課題がありました。財政危機に陥っていた時期でもありましたので、財政を立て直しという一番大きな課題を解決したことが良かったなと思っております。その財政を立て直したことによって市立病院の改築にも手を付ける事が出来ましたし、また米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画で統廃合を進めることも出来ました。これは市政運営における大きな課題を解決したのではないかと思います。

○記者

市長は32歳で市議会議員になられてから県議、市長と40年近い政治生活を送ってこられました。これまでの政治家としての40年を振り返っていかがですか。

○市長

最初の頃は市の政治のみに邁進しました。しかし、政治というのは県があり国があります。国と地方自治をどのように充実させていくかということについて年々歳を重ねるごとに理解する事が出来たと思っております。地方自治をいかに良くしていくかという視点でとらえた場合に、時には県、国としっかり連携をしていくことが重要であるという思いで市政運営にあたってきました。そのことによって大きな事業にも着手出来ました。また、基盤整備の中において人口減少が進んでいる中でも税収が落ち込んでいない大きな要因は東北中央自動車道福島米沢間が開通し、それによって八幡原工業団地が100%完売し、また、そのことによって税収に良い影響が出たことだと思っております。また、道の駅米沢も米沢の物産、文化をPRする施設として活用する事も出来ました。ストロー現象を防ぐ効果が高まったと国にも認めていただいております。大変ありがたいことだと思っております。

○記者

まだまだこれから先、長い人生があると思いますが、今後どのようなことをしていきたいでしょうか。

○市長

100歳まで生きると考えるとあと27年あります。常々お話しさせていただいているのは10年ほど前から家庭菜園を始めておりますので、晴耕雨読ということではないのですが健康に注意しながら満喫していきたいと考えております。いつまでも元気で今後の人生を楽しく歩んでいきたいと思っております。

○記者

これまで様々な成果をあげられてきたと思いますが、市立病院、三友堂病院、給食センターや米沢ブランドなどありますが、市政として止めてはいけない部分や今後継続が必要な部分についてどのようにお考えでしょうか。

○市長

SDGs 未来都市の17項目の中に未来に向けてやらなければならないことが多くあると思っております。その中で最も課題としていうならば人口減少、少子化にしっかり取り組んでいかなければならないと思っております。担当者には局所的な人口減少、少子化ととらえずに総合的な窓口、組織を作りそれぞれの部、課と連携し集約するようなポジションの必要性について話をしてきております。今後米沢市の市政運営の中でどのように取り組んでいくのかを期待しながら見守っていききたいと思っております。

○記者

米沢市は今後どんなまちになって欲しいと思えますか？

○市長

住民の皆様が明るく元気に生活できるような環境をどのように整えていくかということに尽きると思えます。少子化の対応として子どもたちが元気で生活できる環境であり、子育て支援もしっかりとしていけば、まちはおのずと賑わい、赤ちゃんの泣

き声があちらこちらから聞こえてくるような活気があるまちになると思います。小中学生においても米沢市立学校適正規模・適正配置等計画で今まであった地域の学校が統合されてしまいますが、切磋琢磨して子どもたちが学べる環境づくりは重要であると思っております。また、大人が本市で働いていける環境づくりも重要であると考えております。高齢者の皆様におかれましても、リタイアされた後に地域の一役を担いながら、元気で生活できる環境づくりが今後もますます重要になってきます。

このようなことが、人口減少は進んでも持続可能な地域づくりとしてこれからの重要な課題になると思っておりますので、今後の市政の中でしっかり取り組んでいただきたいと思っております。

○記者

市民に送りたい言葉を教えてください。

○市長

私の2期8年の市政運営の中で最も大事にしてきたことは、市民総参加のまちづくりを進めていくことであります。米沢の魅力を掘り起こし磨き上げ、価値を高めていこうと多くの市民の皆様にご協力を頂いてまいりました。そして何よりも統廃合によって地域から小中学校が無くなる地域においては、コミュニティセンターの整備をしてまいりました。米沢市全体が元気で、県内のどこにも負けない活力のある米沢市になるように地域の皆様にいろんな場面で活躍していただきながら行政と一体となって今日まで御協力と御支援をいただいていたことに心から感謝を申し上げたいと思っております。

○記者

8年間を振り返ったときにこれはやり切った、これはやり残してしまったというような御自身の評価はいかがでしょう。

○市長

先ほどご質問にもありましたように、市長就任時3つの大きな課題を2期8年の中で解決していかなければと思いついてきたところではあります。それは概ね完了することが出来たということで大変嬉しく思っております。しかし、8年間の中に住民の皆様から求められるものは常にありました。子育て支援センターもそうでありまして、また国とはいろんな課題について連携をとりながら進めてきた部分もございまして、その一環がSDGs 未来都市に係る選定でもあるのかもしれませんが、そして最近の災害を考えた場合に、強靱な米沢のインフラ整備をしていかなければならないという思いで、国道121号の高規格道路整備実現同盟会も発足をさせていただき、住民の皆様が安全安心で生活できる環境づくりに取り組む事が出来たのではないかと思っております。これからは、いかにして人口減少を食い止めるか少子化に歯止めをかけるかという大きな課題もあります。

また、日本全体の事を考えてみた場合に、農業を大事にしていかなければならない側面があります。今、世界的にいろいろな問題が起きている中で我々はいかにして食料を確保し、自給率をどのように上げていくか。鷹山公は大危機に備えていろんな取

り組みをして餓死者を出さなかったとも言われております。先日、農業委員の皆様と農政担当の職員において食料に困らない地域づくりについて話し合いをしたところです。

○記者

2期目は世界的にも新型コロナウイルス感染拡大という誰も思いもしなかったことがありました。この4年はどうでしたか。

○市長

皆さん御承知のとおりパンデミックが地域の人たちを苦しめた時期でもありました。経済の停滞によって市民生活、人々の生活が苦しめられたというのが後半4年間の内の3年。今ようやくそれが回復しつつあるという状況があちらこちらで見受けられていますが、全体を見るとそうでもない分野もある様です。新型コロナ感染拡大前の社会にいかに戻していくか行政で関わっていける部分もあると思いますので、今後回復状況を見ながら対応していったほしいと思っております。

○記者

健康長寿を掲げておられました中川市長の元気な姿を見せ続けることが大切だと思っておりますがいかがですか。

○市長

仕事の時は時間の制約もありましたので夜中3時から歩いておりましたが、今度は日中の明るい時間に歩き、元気な姿を市民の皆様にお見せしたいと思っております。

○記者

市長就任後すぐに財政健全化対策に着手されましたが、そこに鷹山公の考え方はあったでしょうか。

○市長

我々は地方自治を運営していくうえで鷹山公が施した治世を見習いながら、時代は違ってもその精神というのは受け継ぎながら対応をしていくべきだと思っております。財政は厳しい状況でありましたが、住民の健康を守っていくうえでの病院建設などの問題を抱え、周囲から鷹山公になれといったような言葉をいただいたこともありましたので、それを心がけてきたところです。鷹山公は米沢の市民の皆さまだけでなく日本中で鷹山公の事績が検証されている、世界的にも鷹山公は注目をされていた方でもありますので米沢市民としましては産業振興、福祉の向上、教育の振興も含めて鷹山公が取り組んだことは手本として活かしていかなければならないという思いできたつもりです。

○記者

市長が自身の市政に点数をつけるとすれば何点でしょうか。

○市長

自分で点数を付けるのは難しいです。ただ私自身としては全力で走り続けてきたので自分自身に対して褒めてあげたいなと思っております。

○記者

2期8年の中で1番印象に残っている事業について教えていただけますでしょうか。

○市長

米沢のこれからの発展において欠かすことはできないものとして、高速道路が繋がったことだと思います。そのことによって八幡原工業団地が100%完売した事にも繋がったのではないかと考えていますし、本市に対する影響は大きかったと考えております。

○市民

地域医療の再編は難しかったでしょうか。

○市長

難しいことばかりでした。モデルケースとして連携病院を進め、自治体病院で民間病院の在り方を本市が提示したわけですから、もう少し国の支援があっても良かったのではないかという思いです。財政的にも大変ですし、地域医療を考えた場合に置賜には2つの地域医療病院がありますが、いずれ人口減少が与える影響はそれぞれの病院にあると考えております。そういった時にもっと米沢市立病院と三友堂病院の医療連携をきちんと進めていかなければならない。米沢には旧国立病院もあり、また、精神科の佐藤病院の誘致も行いました。舟山病院にはリハビリ等を中心とした在宅復帰支援のための病棟もございます。いずれは米沢市立病院と三友堂病院が置賜の中核病院になると思っております。新たな診療科を加えることが必要になってくると考えますので、現在の古い病棟を解体して整地した場合には、そのようなスペースも考えて後々の問題に備え、米沢市の医療を置賜の医療の拠点として取り組んでいかなければならないということも想定したところでございます。

○記者

新たな舵取り役に期待するということですか。

○市長

はい。置賜総合病院も今後、2市2町の自治体と県の救急救命の人口減少にどのように関わっていくかということも我々が置賜の中核市としてきちんと目配りをしながら進んでいく責任を持っていると思っております。

○記者

退任にあたって御家族からかけられた言葉はありましたでしょうか。

○市長

家内と子どもたちはそれぞれ大変な思いをしながら私自身を支えてくれたかなと思っております。今日が終わって家内と子どもたちがどのように声をかけてくれるか。先日、部課長会で私と副市長、教育長を送る会を催していただきました。その中で市議会議員の頃からのスライドショーがありました。また、家内と子どもたちから「ご苦労様でした。お疲れさまでした。」というメッセージもありました。気持ちは私以上に家内や子どもたちはほっとしているのではないのでしょうか。

○記者

サプライズだったのでしょうか。

○市長

そうなんです。平常心を保っておりましたが目頭が熱くなりました。
皆様、長い間本当にありがとうございました。

○秘書広報課長

これを持ちまして中川市長退任に伴う記者会見を終了いたします。